

2022年9月12日

各 位

会社名 ベルグアース株式会社
代表者名 代表取締役社長兼CEO 山口 一彦
(東証スタンダード・コード: 1383)
問合せ先 取締役兼CFO財務経理本部管掌 富永 真哉
(TEL 0895-20-8231)

特別利益の計上及び 2022年10月期(連結)業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の動向を踏まえ、2021年12月13日に公表いたしました、業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2022年10月期通期連結業績予想数値の修正

2022年10月期通期連結業績(2021年11月1日～2022年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,590	10	未定	未定	未定
今回修正予想(B)	6,480	△70	△50	130	91.50
増減額(B-A)	△110	△80	—	—	—
増減率(%)	△1.7%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2021年10月期)	5,372	△54	△56	122	96.25

2. 修正の理由

当社は、2023年10月期を中期経営目標の最終年度として、「Change&Innovation2023」の基本方針のもと取り組んでまいりました。2022年10月期の業績予想は、伊予農産株式会社を完全子会社化したことによる農業資材等の売上拡大により、中期経営目標から大きく増加(+620百万円)、営業利益は労務費の増加及びベルグ福島株式会社での植物ワクチン研究の開始による研究開発費の増加等を踏まえて10百万円としておりました。

通期業績予想につきましては、売上高は、原油価格高騰や生産資材(肥料等)の値上げが続く中、作付け数量の減少や低価格の苗の購入へ切り替わったことや家庭園芸向けの野菜苗等の売上の伸び率が低下したことなどの影響により、前回予想数値を下回る見込みとなります。

営業利益につきましては、ウクライナ情勢の長期化、円安の影響等により、原材料費の値上げや原油価格の高騰に伴う重油や電気料金の値上げが続いていること、また、2022年4月より開始した植物ワクチン研究にかかる研究開発費について、当初の予想を上回る初期投資費用となる見込みとなったことから、下

方修正することといたしました。

経常利益、親会社株式に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益におきましては、企業結合に伴い暫定的な会計処理を行っていたことにより、未定としておりましたが、経常利益については、会計処理の確定及び最近の業績動向等を踏まえて算定をおこない、親会社株式に帰属する当期純利益については、上記理由に加え、いわて花巻農場の生産設備及びベルグ福島株式会社の植物ワクチン研究所の設備投資に伴う補助金収入242百万円を特別利益として計上しております。

3. 来期の業績見通し

来期（2023年10月期）は、中期経営目標の最終年度となります。お客様のニーズに応えるため原点に戻り、新たな商品及びサービスの提案による事業拡大、2020年度～2022年度に増設及びリニューアルをおこなった設備の生産能力を最大限に活かした生産効率改善による収益力の強化に向け、グループ一丸となって取り組んでまいります。なお、2023年10月期の業績予想につきましては、2022年10月期の決算発表時に公表を予定しております。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上